名古屋教区ニュース

第442号
2024年 3 月

〒461－0004
名古屋市東区葵２丁目６－35
カトリック名古屋教区広報部
電話（052）935－2223
FAX（052）935－2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所　株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

能登半島地震に際して
── 痛みの連帯から ──

教区司教　松浦悟郎

2024年元旦、能登半島で起こった地震は私たちに大きな衝撃を与えました。実態が分かるにつけて、今もその被害の大きさと深刻さが明らかになってきています。名古屋教区として、地震で亡くなられた方々に永遠の安息と、被災して今、困窮の中におられる人たちのために祈り、支援をおこなっていきたいと思います。

今回の地震に際しては、何よりもまず、名古屋教区内外から本当に多くの方に祈っていただき、また、支援金が今も送られ続けていることを心から感謝したいと思います。いろいろな教会で募金をしてくださり、また、いくつものカトリック学校では生徒の皆さんが街頭に出て募金活動をしてくださいました。教皇フランシスコからのお見舞いメッセージをはじめ、韓国、米国など、海外からもお見舞いと励ましのメッセージと募金が送られてきました。こうした姿をみるとき、教会や善意の人々とのつながりを強く感じ、励まされます。

東日本大震災の時のことを思いだします。地震直後、私は会議で韓国に行きましたが、驚いたことに、空港や町のいたるところで、日本のために募金活動が行われており、長蛇の列ができており、多くの市民が応じてくれていました。その頃、政治的には日韓関係は悪化していましたが、まったく関係ないかのようにこれほど多くの人たちが日本の被災者のために支援しようとする姿に感動したことを昨日のように思いだしました。

被災後の教区の動きについては、1月20日㈯に金沢教会内に開設された「カリタスのとサポートセンター」からの報告をごらんください。特に、中央協議会に設置されているERST（緊急対応支援チーム）が交代でスタッフを送って下さり、支援活動をサポートしてくださっていますので活動の幅が広がり始めています。心から感謝します。

今、被災地の現状を見ると、教会の再建も地域の復興にも相当な年月がかかることが予想され、名古屋教区としては、息の長い支援を続けていく必要があると考えています。そのためには、今後も皆さまの祈りと支援が必要となります。

募金についてですが、私が1月4日、最初に「報告と対応」を出した時点では被害の全体像がつかみ切れていませんでしたので、募金を取り合えず6月までとしましたが、今後は期間を決めずにお願いしていくことになると思います。

今、毎日のように報道される地震関連の報道に接しながら、いろいろなことを考えさせられています。具体的な支援を続けながら、特に、教会として、今回の地震による被災の実態に触れて浮きぼりにされてきたことをしっかり記憶にとどめることが大切だと思います。すなわち、教会内や地域の人々との関りの中で今まで見えていなかったことや見落としていたことに気づくこと、また、教会の地域における役割や互いの協力関係のあり方などについて振り返り、分かち合い、全体で共有していきたいと考えています。また、私たちが今、多くの方々の善意に支えられていることの状況にあるからこそ、今、他の地域で起こっている人々のことを忘れず、祈りのうちに思い起こしたいと思います。

私たちは、東日本大震災の原発事故で今も避難生活を強いられている人々のことを、また、トルコなど、世界各地で起こっている地震や他の災害の被災者たちのことを忘れません。また、火事で焼失した輪島の朝市通りを見るとき、そこに住んで生活していた人たちのことを案ずるとともに、あの光景が空爆で瓦礫と化したウクライナやガザの町と重なって見えます。異なる状況であっても火の中を逃げまどう人々のことに思いを馳せ、祈らざるをえません。

こうした「痛みの連帯」によって人々がつながっていき、誰もが平和に暮らせる日々を取り戻し、それを支える暖かい社会が実現していくことを心から願います。

新成人と共に祝う
教区新年の集い

説教する松浦司教

新成人の皆さん

6人の新成人を迎えて「教区新年の集い」が、布池司教座聖堂で1月14日に行われた。ミサを捧げるに当たり松浦悟郎司教は、「元旦に襲った大地震、そして世界ではずっと続く激動の戦禍の中で迎えた新年であるが、神の働きを信じ、希望を持ちながら、この一年を歩んで行きましょう」と挨拶した。ミサの説教では「新しい」という言葉を取り上げ、「新しい年を迎えても、新しいものを身に着けても、私という人間は何も変わらない。それに対して聖書にはペトロやパウロのように、イエスに出会って生き方そのものが全く変えられたことが書かれている。これが聖書でいう「新しくなった」ということである。私は何のために、どこに向かって生きているのか、と思うときがある。クリスマスの3人の博士たちは星を頼りに道を歩いていたが、途中で道に迷う。それはある瞬間、エルサレムの輝きに惹かれ、星の光から目をそらしてしまったのではないか？再び星の光によって道を見出し、イエスに出会った後、彼らは別の道を通って帰って行った。ヘロデの道ではなく、イエスに出会った本当の道を通って帰って行った。私たちには迷った時に素晴らしい戻る場所がある。それが教会である。私たちは日曜日に教会へ来てミサに与り、み言葉に触れ一緒に祈り、キリストの示してくれた道を歩むんだという事を新たに思い起こし、また自分の住んでいる場所、社会へと戻って行く。何となく生きてきた自分を振り返り、イエスと出会って決定的に自分を変えた時はいつだったのか、思い起こしてみましょう」と話した。この後、新成人たちは司教が問いかける「新成人の約束」に力強く答え、1人1人、司教から祝福を受けた。

ミサの後は青年委員会の主催で、松浦司教も参加して「新成人の集い」が教区センター2階で行われた。新成人から今、頑張っていること、抱負などを語って自己紹介してもらい、暮林響神父のギターに合わせて歌ったり、ゲームをして、菓子をつまみながら大いに盛り上がった。

青年委員会から新成人たちに、インターネットでイベントなどの情報を流すので、是非参加してほしいと、呼びかけがあった。

青年のつどい

聖地のための献金
聖金曜日

14世紀中頃、教皇クレメンス6世はパレスチナ各地の巡礼所と欧州からの巡礼者保護をフランシスコ会に委託した。その後、政情不安な聖地で苦労する修道者達を支えるために行われるようになった献金は、聖金曜日に捧げられるようになった。教皇レオ13世は1897年、カトリック教会の全ての小教区にこの聖地のための献金を命じた。

全世界の教会から教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある巡礼所や聖堂などの維持管理、聖地の貧しい兄弟たちのための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などの資金として使われている。

世界召命祈願の日
復活節第４主日

神は、全ての人が誠実に自分の生涯を送るように招いている。ある人は、社会の中で働く人として、また家庭を築いていくように、そしてある人は、司祭、修道者となるように招かれている。神の招きは人それぞれに異なるが、神の望みを祈りつつ探していくことが大切である。近年、司祭、修道者の減少、高齢化が進んでいる。特に「世界召命祈願の日」には、司祭、修道者への召命に1人でも多くの人が応えることができるように祈りが捧げられる。

この日は、聖パウロ6世教皇によって1964年に制定された。

教区設立100年後の課題

A GIFTを告げに出ていこう！
次世代に信仰をいかにつなぐか？
「隔ての壁」を壊し「新しい人」になろう

3月31日 復活祭

教区ホームページ
福音のひびき

3月の説教者

3日　四旬節第3主日
ホー・ショウフェン（刈谷教会）

10日　四旬節第4主日
ティボン・レイナルド（城北橋教会）

17日　四旬節第5主日
島袋　幹男（聖心教会）

24日　受難の主日
フィラデルフィ・パヴォール（南山教会）

31日　復活の主日
平田　豊彦（八熊教会）

能登半島地震の報告

カリタスのとサポートセンター センター長　片岡義博神父

震災から2ヵ月「ついたちの祈り・ついとうの祈り」

幼稚園の子どもたち、先生方、保護者の皆さん、教会の信徒の皆さん、地域の皆さんなど、集ってくださり、震災で亡くなられた方々のために、また、いろんな思いを抱えながらも前を向いて頑張っておられる方々のために、そして、いまもそれぞれの場でいのちを守るために尽力されておられる方々、ボランティアの方々にも励ましと力を願いながら、想いをひとつにして、祈りの時間を持つ集まり。今後継続して毎月1日に開催していく。

ついたちの祈り・ついとうの祈り

当面は水支援を柱に活動

ボランティアの受入れがなかなか厳しい状況の中、断水が続いていることの状況で、なにかできるのかを思い、水の支援とした。特に高齢で、給水所まで水を取りに行くことが困難な方々のために、電話をくだされば自宅まで届ける支援を、1月末よりチラシをつくって独自でまわることをスタートした。

幸いにも社会福祉協議会から、包括支援センターなどにもうまくつながり、問い合わせが多くあり、大きなニーズを感じている。

サポートセンターでは、今後しばらくの活動として、断水の完全復旧まで2〜3か月続くといわれるこの期間は、この水支援の活動を1つの柱として、ボランティアにも協力をいただきながら進めていく予定である。

水支援活動

「じんのび食堂」は金沢・富山の教会信徒からの支援

1月21日から毎週日曜日に、七尾の聖母幼稚園前で開催している「じんのび食堂」は、回を重ねることに地域の方々への認知度もあがり、先日も賑わいを見せた。1ヵ月以上過ぎても未だ多くのところで断水が続き、生活が変わらない中、当然のように皆さんの表情にも疲れが感じられる。そういった中、少しでもホッとしたり、おしゃべりしたり、弱音を吐けたりする場として、継続していくことができるように、金沢教会信徒有志で、また七尾市は富山県側から自動車道があるため行き来しやすいことから、富山地区の4つの教会からも月に一度有志の方々で活動支援をお願いしていく予定である。その水支援を通して、水以外の必要な物資の支援、あるいは高齢の方々の見守りなどの役目も果たしていくことができたらと願っている。

じんのび食堂

3月1日より羽咋ボランティアベース本格的に稼働へ

羽咋教会に、ボランティアさんの受入れのために現地常駐スタッフを整え、3月1日よりボランティアベースを開設し、受け入れをはじめる。毎週、月曜〜水曜までの2泊3日。あるいは金曜〜日曜までの2泊3日で、3日間滞在できる方のみを募集。詳しい募集要項は、「カリタスのとサポートセンター」のブログを確認のこと。また今後、教会、幼稚園の水道の復旧を待って七尾ベースも順次開設予定である。

名古屋教区のとサポートミーティングを毎週オンラインで開催

同じ名古屋教区のメンバーとして、能登半島地震の支援などを考えている教会、ブロック、委員会、グループなどと、現地サポートセンターと情報共有や交換をおこなう、「のとサポートミーティング」をオンライン（Zoom）にて毎週金曜日の19時30分よりおこなっている。個人での参加は不可。問合せは宣教司牧評議会事務局TEL 052-935-2223(早川助祭)まで。

輪島方面への支援拡大のため情報リサーチ

羽咋や七尾ベースで七尾地域での水支援の活動とともに、被害の大きい輪島地域の方への支援の活動の可能性、教会が被災したため拠点づくりも含めて、各方面に情報収集をしていけたらと考えている。

教会の主な被災状況

小松教会

鐘楼に外壁くずれがあり、雨漏りなど被害が大きくなっている。

七尾教会

屋根瓦のくずれをはじめ、外壁のクラック、聖堂外壁が沈み床が傾いた。

輪島教会

聖堂・司祭館は、応急危険度判定の「危険（赤紙）」が貼られた。

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

会場・問合せ
カルメル会日比野修道院（日比野教会）
(052-671-1003)

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】

テーマ　民数記（荒れ野にて）の全体構造とメッセージ②新世代
日　時　3月16日(土) 14時30分〜16時30分
担　当　志村 武神父（カルメル修道会）
持ち物　必ず聖書（旧約＋新約）を持参ください。
参加費　無料　どなたでもご自由にご参加ください。
以降の予定：4月20日(土)、5月18日(土)、6月22日(土)

【静修の集い】

テ ー マ　リジューの聖テレーズにおける信頼の道
日　　時　3月9日(土) 10時〜15時
講話担当　志村 武神父（カルメル修道会）
スケジュール　講話①、ご聖体顕示、昼食、講話②、ミサ、茶話会
参 加 費　無料（自由献金をお願い致します）どなたでもご自由にご参加ください。
持 ち 物　昼食（各自持参）、聖書（旧約＋新約）

光ヶ丘女子高等学校
クリスマスページェント２０２３

ページェントのフィナーレ

光ヶ丘女子高校の伝統行事である「クリスマスページェント２０２３」が、岡崎市民会館あおいホールにて12月16日、17日両日に行われ、盛況のうちに幕を閉じた。吹奏楽部、ダンス部、合唱部、放送部、有志など、裏方のスタッフを含めると総勢300名以上の生徒たちが舞台の制作に携わっている。第一幕では、アダムとエバ、カインとアベル、ノアの箱舟の物語を、第二幕ではモーセの生い立ちからエジプト脱出、モーセの終焉を、そして物語のフィナーレである第三幕ではキリストの降誕を、吹奏楽部の演奏に合わせてダンスや演劇で語られていった。今年度の公演は感染症による制限などがなく、舞台上での演出もより迫力のあるものとなった。物語のフィナーレで歌われる合唱は、舞台上だけでなく客席通路でも行われ、会場全体が温かな歌声と感動に包まれた。

過去のクリスマスページェントの様子は、YouTube の「光ヶ丘Channel」からも視聴できるので、ぜひ、ご覧いただきたい。

聖霊中学・高等学校の生徒による
クリスマスコンサート
『第42回 EVE, My 青春！』公演
開催される

聖霊中高クリスマス

12月16日、名古屋栄の Hisaya-odori Park メディアヒロバにおいて、聖霊中学・高等学校の生徒60名によるクリスマスコンサート『第42回 EVE, My 青春！』in メディアヒロバが開かれた。当日はあいにくの雨で、予定されていたオーケストラ部の演奏は中止に。エレクトーンの演奏と聖歌隊の合唱が披露された。冷たい雨にもかかわらず、会場には多くの観客が足を運び、温かな雰囲気であった。

また、12月25日は、愛知県芸術劇場コンサートホールにて、総勢550人による『第42回 EVE, My 青春！』in 芸文が開かれた。「今宵キリストはうまれ給えり」・「荒野の果てに」・「諸人こぞりて」など全20曲が披露された。曲目には、「ああベツレヘムよ」「あなたの平和の」が新たに加えられた。『EVE, My 青春！』が42年間一貫してコンサートの中で発している平和への願いを込めた選曲である。コンサートの途中、マイケル・リンストロム校長がクリスマスメッセージとして『ああベツレヘムよ』の歌詞にふれ、ベツレヘムのあるパレスチナの戦禍にふれながら、「全世界の平和は、私たち一人ひとりの心の平和からはじまる。私たち一人一人が平和をもたらす神様の道具なれますように」と挨拶をした。このコンサートの模様は、インターネットでもライブ配信された。

「フクシマからの避難者」
―誰一人置き去りにしない―

正平委の新年最初の学習会は1月12日「だまちゃおれん！原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜」原告団長の岡本早苗さんを講師に招き、福信館で行われた。

名古屋出身の岡本さんは5人の子供の母親である。自然豊かな場所で子育てしたいと、２００８年夫の転勤を機に福島県伊達市（フクシマ第一原発から60ｋ）に移り住んだ。

２０１１年3月11日フクシマ原発事故発災時は身重の中、４人の子供を連れ、夫を残し、山形を経て名古屋に避難することを余儀なくされた。

福島の豊かな自然と風土の中での平穏な暮らしは奪われ、放射能による健康不安、過酷な避難生活の中で心身ともに苦しみの中にあった。そんな折、同じ避難者と出会い、交流を通して、２０１３年原発事故避難者の会「あゆみ R.P.Net」を設立し、同年、国と東電を相手取り、損害賠償と共に、事故の実態を発信する必要があると、名古屋地裁に提訴、平凡な一主婦は集団訴訟の原告となった。２０１９年8月、6年間の苦しい裁判闘争を経て出た判決は、国の責任は認めず、東電の責任も過失は無く損害賠償責任に留まるという不当判決であった。

同年、9月、7家族、23人は、原発事故による被ばくは人権侵害であると訴え「脱原発、被ばくを避ける権利、被ばく防護」を掲げて「だまちゃおれん！原発事故人権侵害訴訟愛知岐阜原告団」を新たに立ち上げ、名古屋高裁に提訴した。昨年11月の判決でも、「被ばくを避ける権利」は無視され、国の責任は認めず、東電は一審の判決より更に免責されてしまった。

同種の訴訟は全国に30件あり、最高裁は4つの訴訟について国の責任を認めないという統一判断をしている。原発事故発災から13年、今も福島は放射線管理区域以上の汚染が、被害地域に多くある。健康被害、将来への健康不安、生業を失い、故郷を奪われた人々を置き去りにして切り捨てていくのであろうか。

国は原発回帰政策の元に、老朽原発の再稼働、新増設、40年廃炉ルール（フクシマ原発事故後、40年を超える原発は危険で、廃炉にすると決めた方針）の撤廃等が推し進められている。私達は、原発事故の教訓を忘れてはならない。

最後に岡本さんは「私は被害者であり、今の社会を作ってしまった加害者でもある。誰一人被ばくを強制されない世の中を作るため、子供に渡せる未来を思い、最高裁で訴えていきたい」と力強く語った。

（次世代を考える会　西谷恭子）

ベトナム青年信徒
クリスマスの集い
「エンマヌルと共に歩みつつ」

名古屋教区内の小教区には、多くのベトナム人のグループが存在するが、そのうち14の教会から青年たちが12月24日、南山教会に集まり、「エンマヌルと共に歩みつつ」をテーマに掲げてクリスマスの集いが盛大に行われた。この集いは、２０１９年に初めて行われたが、その後コロナ禍のため開けず、今回は4年ぶりの再開となり、みんなの喜びもひとしおで、約１，０００人以上もの青年たちと家族などが集まり、聖堂を埋め尽くした。

プログラムの初めはクリスマス音楽会で、衣装などにも工夫を凝らしたそれぞれのグループがコーラス、ダンス、劇などを披露した。招待された松浦悟郎司教も神学生と共に聖歌を歌い、会衆を沸かせた。続いて行われた降誕祭のミサでは、主司式の松浦司教がベトナム語を交えて、ミサを捧げた。最後は、信徒会館のマリア館ホールに場所を移し、みんなで持ち寄った料理でパーティーが行われ、クリスマスのお祝いを楽しく分かち合った。

今回、企画を担当したペトロ・リエム神父（神言会）は、「大勢の人が集まり、共にクリスマスの喜びを分かち合えたことは、素晴らしかった。ただ時間がなかったためお知らせ不足で、日本人の参加が少なかったのが残念、今度は広くアピールしたい」、と語った。

お詫び

教区ニュース2月号の発行が都合によりできませんでしたこと、皆様に大変ご迷惑をお掛けいたしました。心からお詫び申し上げます。

教区広報部長　平田政信

神言会　司祭叙階式

日　時　3月16日（土）14時
会　場　南山教会（名古屋市昭和区南山町１）
司　式　松浦悟郎司教
司祭受階者　ウィルフリード・リンガアマ・クロメン
ファビアヌス・ジョン・モネ・セラン
ジョセフ・シジョ・コッラピッルル

ライブ配信を行います。
「SVD Japan TV」（YouTube）
https://www.youtube.com/@svdjapantv3719

（祭）＝祭日、（祝）＝祝日、（記）＝記念日

3月の教会暦

1日(金)　性虐待被害者のための祈りと償いの日
3日(日)　四旬節第３主日
10日(日)　四旬節第４主日
17日(日)　四旬節第５主日
19日(火)　聖ヨセフ（祭）
24日(日)　受難の主日（枝の主日）
28日(木)　聖木曜日（主の晩餐）
29日(金)　聖金曜日・主の受難（大斎・小斎）
　　　聖地のための献金
30日(土)　聖土曜日
31日(日)　復活の主日（祭）

4月の主な教会暦(主日・祭日など)

7日(日)　復活節第２主日（神のいつくしみの主日）
8日(月)　神のお告げ（祭）
14日(日)　復活節第３主日
21日(日)　復活節第４主日
　　　世界召命祈願の日
28日(日)　復活節第５主日

教区行事予定　（＊＝松浦司教）

3月

3日(日)　城東Ｂ会議／愛岐Ｂ司祭会議
　　　性虐待被害者の為の祈りと償いのつどい（平針協会）
6日(水)　城南Ｂ司祭会議
8日(金)　正義と平和委定例会
9日(土)　殉教者委定例会／典礼委員会コアミーティング／修女連「総会」＊／信徒協役員会
10日(日)　三河Ｂ会議・司祭会議／岡崎教会堅信式＊
11日(月)　城北Ｂ司祭会議
12日(火)　難民移住移動者委員会／樹の会
13日(水)　カリタス福祉委員会
16日(土)　レジオ・マリエ「アチェス」
17日(日)　城北Ｂ会議／城南Ｂ会議／能登視察＊
18日(月)　のとサポート会議(金沢)＊
19日(火)　カトリック看護協会例会
21日(木)　名古屋教区司教座聖堂献堂記念日
23日(土)　教区障害者の黙想会
27日(水)　聖香油ミサ／司教・司祭・修道者ダイヤモンド金銀祝の祝い
　　　朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式＊
28日(木)　顧問会
30日(土)　教区法人評議員会

4月

9日(火)　難民移住移動者委員会／樹の会
12日(金)　正義と平和委定例会
13日(土)　典礼委員会コアミーティング／殉教者委定例会／信徒協役員会
16日(火)　カトリック看護協会例会
17日(水)　カリタス福祉委員会
18日(木)　顧問会／月集＊
20日(土)　レジオ・マリエ「名古屋クリア」
21日(日)　愛岐Ｂ会議
24日(水)　能登視察＊
25日(木)　のとサポート会議(金沢)＊
28日(日)　東山教会建堂60周年
29日(月)(祝)　殉教者祭(金沢卯辰山)＊／典礼委「典礼研修会」／殉教者委「浦上キリシタン流配者のためのミサ」

教区行事以外の松浦司教予定

3月

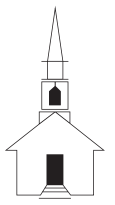
7日(木)　司教常任委員会
19日(火)　南山学園評議員会

4月

8日(月)～12日(金)　アド・リミナ(ローマ)

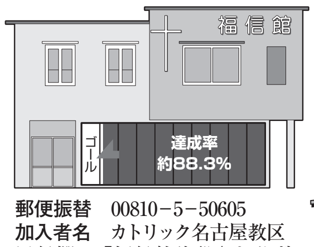
告知板

◇**3月の炊き出し**
木　7日布池、14日南山・樹の会、21日聖霊・南山・樹の会
金　1日喜望の会、8日ＡＪＵ・恵方町、15日布池、22日長浦



建設費の返済に協力を

665件 35,524,490円
目標額 40,000,000円 (1月末現在)



郵便振替　00810−5−50605
加入者名　カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

サダナ ～神への道～【入門コース】

聖イグナチオの霊性を基に、「心と知性の静けさ」「神様との個人的な触れ合い」を体験します。

日　時　入門Ａ　5月12日(日) 9:30～17:00
　　　入門Ｂ　6月9日(日) 9:30～17:00
　　　入門Ｃ　7月7日(日) 9:30～17:00
場　所　聖霊会　八事修道院　ミッションセンター
　　　名古屋市昭和区八事本町１番地　（駐車可）
指　導　植栗彌（うえぐりわたる）神父（イエズス会）
問合せ　攪上暁子（かくあげあきこ）
　　　メール　ngosdn@gmail.com
　　　☎050-7108-7410
参加者喜びの声　右 QR コードよりご覧ください。

〈2024年度の予定〉
■リピーターの会（入門 ABC サダナ1経験者のみ）
　以下ＡとＢは別内容。
　いずれかだけでも参加可能。
　Ａ　11月2日(土)、Ｂ　11月3日(日)
■フォローアップ（入門 ABC サダナ1経験者のみ）
　11月4日(月・振休)
■サダナ2（入門 ABC またはサダナ1経験者のみ）
　4日間すべて参加可能な方のみ。部分参加は不可。
　2025年1月25日(土)・26日(日)
　　　2月1日(土)・2日(日)

第36回名古屋教区障害者連絡会 四旬節黙想会のご案内

―障害を持つ人々と共に―

（要約筆記、手話通訳あり）

テーマ　「ささげるということについて」
　　　―リジューの聖テレーズとともに―
日　時　3月23日(土) 9:45～16:00
場　所　南山教会マリア館2F ホール
　　　名古屋市昭和区南山町1
　　　TEL 052-831-9131
指導司祭　志村 武神父様
　　　（カルメル修道会・日比野教会主任）
参加費　無料（昼食として弁当を用意します。希望者は申し込んで下さい。500円）
問合せ　カリタス福祉委員会教区障害者連絡会
　　　（TEL 052-852-1426）
主　催　名古屋教区障害者連絡会、
　　　カリタス福祉委員会
　　　＊詳細は第80号会報をご覧ください。新型コロナウイルス感染が5類に移行されたとはいえ参加される方は各自予防対策を講じてください。

聖香油ミサのご案内

キリストによる司祭職の制定を記念する聖香油ミサでは、教区で働くすべての司祭が集まって司教と共同司式をし、ミサの中で司教に対する約束の更新を行い、また、司教による聖香油の聖別、洗礼志願者の油と病者の油の祝福が行われ、ともに祈ります。

名古屋教区では毎年、司祭、修道者、奉献生活者のダイヤモンド金銀祝をお祝いしますが、今年もこの聖香油ミサと合わせて行われます。

また、今年は教区の近藤真理生神学生の「朗読奉仕者」選任式と、終身助祭候補者秋元伸介さんの「祭壇奉仕者」選任式も合わせて行われることになりました。

新型コロナウイルス感染症の予防的措置のため行われなかったミサ後の茶話会が、聖堂地下ホールで三河ブロックの方々のご奉仕により行われます。

日　時　3月27日(水)　午前10時30分
会　場　布池教会大聖堂
主司式　ミカエル松浦悟郎名古屋教区司教
＊公共交通機関でお越し下さい。

２０２４年 司教・司祭Ｄ 金銀祝該当者

司教叙階　銀祝
松浦悟郎（名古屋教区）

ダイヤモンド祝
野村純一名誉司教（名古屋教区）
岩崎一二三（名古屋教区）

金祝
狩浦正義（名古屋教区）

銀祝
大海明敏（神言会）
ムンシ・ロジェ・ヴァンジラ（神言会）
北向修一（コンベンツアル聖フランシスコ会）

修道者・奉献生活者Ｄ 金銀祝該当者

ダイヤモンド祝
宮崎洋子（聖霊会）

金祝
金光英子（聖霊会）
村上多美代（聖霊会）

銀祝
梅村祥子（聖霊会）